
もしも僕が.....

アオ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

もしも僕が……

【Nコード】

N6149C

【作者名】

アオ

【あらすじ】

馬鹿なところがたくさんありますので、できれば書いてください。ホント、すいません。

「やあやあ皆さん。お早いですねえー。私なんて、朝ごはんの人間が無駄に足掻いて、食べ憎いのなんのって、もうほんと、大変でしたよー」

もしも僕が……『死神』だったら。

「さつさと席に着け！遅れているんだぞ」先生は右手に持っている鎌を高々と振りかざす。

「あ、…すんませーん。今すぐにつきます」
ぼくは、自分の席に座る。

「まったくお前さあ…」
後ろから声がしたので振り返ってみると、田中がいた。
おれが初めて生の人間を食べた時、一緒にいて見守ってくれていたやつだ。

ついでに言つと、こいつはおれより3か月前に、人間を食えている。

「この頃遅刻ばっかじゃん。今の人間が食いにくいんなら、子供のやつでも取ってこいよ」

「いやー、なんか食いにくいじゃん、子供って」

「バーカかお前。そんなで一人前の死神になれつかよ」

田中は、説教をやめようとしなない。

ああ、そついやーと、朝のことを思い出す。

「あー…やべえ、のたれ死ぬ」

腹が減って死にそうだ（まあ、実際にはどれだけ年取っても死なないけれど）。

辺りは明るい公園で、子供たちの笑い声が何ともたまらなくおいしそうだ。

「誰か一人……だれかひとり………」と、念じるように願う。すると、一人の子供が現れて、おじさんは誰？と聞いてきた。透通る声で、僕も消されてしまうようだった。

「あー…えー…とねえー…」

すると、向こうから一人の男が現れた。

「何してんだよおまえ、そんなところで」

堂々とした声に、僕はたじろぐ。

「あ、おじいちゃん」

子供が男を見て言ったけど、おかしかった。

なぜなら、男はまだ20代か30ぐらいの人だからだ。

……意味がわからない。

私がぼーっとしていると、男がこちらに気づいたようにこちらを見て、「ああ、すいません。変わった子なんですよ」と言って笑いかけた。

「じゃあ行くよ!」と子供のほうがいって、背を向けた。

男は何も言わずついて行ったが、……………

僕がどっちを食ったのかは、僕しか知らないことだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6149c/>

もしも僕が.....

2010年10月25日18時34分発行